



HSK

ふづき
文月号

NO.116 2010.7.10号

Advocate

1973年1月13日第三種郵便認可 HSK通巻番号460号

発行/2010年7月10日

編集者/我妻 武

住所/〒063-0812

札幌市西区琴似2条5丁目3-5マンションMOM01F

特定非営利活動法人 札幌・障害者活動支援センターライフ

TEL 011-614-1873 FAX 011-613-9323

H P <http://npolife.net/>

発行/北海道障害者団体定期刊行物協会

定価/100円

「ライフの20年、法人化の10年を振り返って」

理事長 深澤 正義

1989年に障害を持つ3名の仲間が集まって「障害者ワープロフロアー」を設立してから20年が経過しました。これまでの多くの関係者の人たちのご努力で今日を迎えることができたものと心から感謝と敬意を表します。

ライフがとり組んできた活動を振り返って見る前に福祉の原点について少し考えてみたいと思います。

福祉とは何か。広辞苑を引いてみると「福祉とは幸福を意味する。公的扶助による生活の安定と充足」と記してあります。つまり、人間が人間らしく幸福に暮らすための施策が、福祉政策であり、その基本に立ち戻れば、現状の歪みに、嫌でも気づかざるを得ません。こんなことはいまさらとは思いますが、もう一度福祉の定義を再確認すべきではないでしょうか。福祉は、施しではないにもかかわらず受益者に対して、高圧的な態度で対応してきた行政、人並みの生活をしてはいけなような錯覚を起し、人目を気にして暮らす生活保護の受給者、福祉予算は特殊な人の予算だから、財政に負担をかけないようにすべきだと主張する政治家など、おかしな「福祉」が横行している現状は目にあまるものがあります。生まれてきた人間が幸せに生き、人生を終えるまでの支援の形態であって、決して施しではないことを再認識し、私たちの生活をもう一度振り返ってみる必要があります。

北海道に暮らして、豊かな生活を実現するためにも、福祉政策、福祉活動はきわめて重要であり、なにも主張もせず黙っていたのでは何も変わりません。

「障害者ワープロフロアー」を立ち上げた当時の仲間は、福祉的就労に頼った考え方ではなく、社会に存在する矛盾や差別を見抜き、それらを取り除くために仲間とともに、主体的に社会に働きかける行動を継続的に取り組んでいくことをめざしてきました。

自立とは、施設や家族から離れて日々テレビやパチンコに明け暮れることが、個人の選択の一つにあるにせよ社会的自立とは言い難いのではないのでしょうか。それは障がい者自ら主体的に社会に働きかけようとする生き方とは違うからです。

障がい者が抱える問題は、何も障害があるから不幸であったり、障害そのものによる問題ではなく、障害があることで不利益を被ったり、障がい者が一人の人間として当たり前には生きられない状況こそが問題なのです。

そういう点から障がい者の問題は社会の側にあるわけです。「障がい者だからそんな状況に



- 1988年 一人の障がい者がワークスコレクティブとして運営している印刷会社「オフィス・イマージュ」に参加、翌年「ワープロフロアー」開設
- 1990年 札幌市の小規模作業所として共同作業所「障害者ワープロフロアー」活動開始
- 1999年 小規模作業所おそろ開設
- 2000年 特定非営利活動法人札幌・障害者活動支援センターライフ認証
- 2002年 自然食品と手づくり品の店「ひだまり」開店
- 2003年 指定居宅支援事業所ヘルパーステーション「蘭結」開設
- 2006年 共に働く場づくりに着手。共働事業所もじや、共働事業所きばりや、共働サービスたねやに再編。ひだまり、蘭結と合わせて5事業所になる。
- 2007年 喫茶店「Cafe de キバリヤ」開店
- 2008年 キッチンとこだわり品の店「コン・プリオひだまり」リニューアルオープン
- 2009年 アウトソーシングセンター元気ジョブ 社会的事業所集団「傍楽亭」開設 ひだまり配送センター開設



置かれても仕方がない」という一人ひとりの諦めの意識が今日の社会の中での障がい者の状況を容認したり、追認したり、障がい者の生き方を決めたりしており、それぞれの人の意識の中に障がい者問題があるといえるのではないのでしょうか。

障がい者の自立生活を実現していくためには、個々人の障がい者の努力のみに自立を委ねるのではなく、自立を阻むさまざまな社会的障壁を社会全体で取り除いていくことが重要と考えるわけです。しかし、現実には多くの課題を抱えています。

大きな問題の一つに住宅問題があります。自立をして一人暮らしをしても年老いて介護が必要な人、親が高齢化して一緒に暮らすことが困難になってきた人など、高齢化が進行することによる「介護と住宅」の問題は近々の課題となっています。

勿論これは高齢社会全体の課題ですが、しかし、介護保険導入に向けた国民的な議論をされてきた、その陰のところで障がい者の高齢化に対する生活不安は持ち続けられていた問題でした。なぜなら、障害をもっているがために介護保険がらみの施設からは入所を拒絶されてきたことを体験し、障がい者に対する差別が歴然とあるからです。

そのためには障がい者のための共同住宅の建設と障がい者に向けた居宅支援にとり組むことの重要性を早くから認識し、2000年に念願の共同住宅建設に向けて、NPO法人格を取得し、「特定非営利活動法人札幌・障害者活動支援センターライフ」が全体の運営について責任を持つ体制に組織替えしスタートしてきました。今年でNPO法人取得から10年、「ワープロフロア」の設立から20年を迎えました。

次に障がい者の社会的ニーズとして「行き場がない」「一般就労もできない」そこで数人の人たちが集まって必要な場として作業所ができてきました。しかし、80%の作業所が30年も40年も同じところで同じことを漫然とやってきたわけです。いわゆる福祉的就労という状態が続けられてきました。

何とか福祉的就労から脱皮していかねばと誰しもが考えてきました。そんなときに石澤専務理事からNPO法人共同連との出会いで障害の有無にかかわらず共に働く場である「共働事業所づくり」の実現と「社会的事業所づくり」

(共同連の目標)を展望していきいたいという考え方が示されました。

さらに、「第23回共同連全国大会」を、この北海道で開催することは「共に生き、共に働く場」づくりをめざしてきた仲間たちの未来を切り拓く大きなチャンスになるのではないかとこの期待についても提起がされました。

ライフ内部で議論をしてきましたが、「共働」ということについてスタッフの「指導員意識」の克服と、共に働きながら賃金の違いについて議論の一致がなされないなど、内部に課題として抱えてきたことも事実です。

しかし、一般就労を考えたとき、健常者も含めて多発する失業者、新卒就職難という状況で、障がい者が労働市場に受け入れていくスペースがあるかということ、非常に困難で難しい。そうなると、社会的な雇用だとか、あるいは優先発注とか、いろいろな社会政策的なことを進めて行かざるを得ないと思っています。

地方自治法の改正で物品購入や委託事業に対して、優先発注とか随意契約ができるようになったことから、上田札幌市政は障がい者に対する社会政策として「札幌障がい者協働事業」「元気ショップ」「元気ジョブ」等、積極的に障がい者雇用の拡大にとり組んでいます。

NPO法人ライフもこの制度をより積極的に活用し、障害のある人もない人も共に働く「共働事業所(自分たちで働く場をつくる)」を開発してとり組んできました。この活動の原点は、「障がい者は指導される対象」から「対等の関係で共に働く場をめざす」という障がい当事者運動として進められてきたものであり、「共に生き、共に働く場づくり」運動は、障がい者の地域における自立を支援する「場」としての役割を、より明確にしていくものとして、さらなる支援策を強く望むものです。

この20年間を振り返って、何度か意識の違いから意見の相違や対立、財政的問題、組織崩壊の危機など紆余曲折しながら乗り切ってきました。いろんな困難が待ち伏せていますが、私たちのめざす方向は明確になってきていると思っています。いまの複雑化した経済構造では、一般企業にだけ就労の場を求めるだけではなく、作業所の側から「共働事業所」の実践を通じて、一般企業の側に対して障がい者を受け止めていく「新しい就労の場」のあり方について理解を求めていければと思っています。



未だに、知的障害者に人権侵害が！

木原 悟志

今回、行われた参議院議員選挙で2件の知的障害者を利用した、選挙違反（投票干渉）事件がありました。栃木県と山梨県で同じような記事があったので、今回は最初に見た栃木の事件のHPの記事を引用して、私の意見を書きました。

去る7月11日に行われた投開票の参院選で、知的障害のある従業員らに、特定候補への投票を働きかけたとして栃木県警は13日、食用油精製会社「吉川油脂」社長吉川勲容疑者（66）を公職選挙法違反（投票干渉）容疑で逮捕した。「同意を得てやった」と容疑を否認しているという。逮捕容疑は11日朝、同市の投票所で、男性従業員23人に、栃木選挙区の候補者名と比例代表の届け出をした政党名を書いたメモを渡し、投票所内で監視しながら投票させたとしている。同社従業員約80～90人の半数が知的障害者で、県に「障害者雇用優良事業所」として表彰されたこともあるという。県警によると、23人の多くは知的障害者で11日は吉川容疑者がバスを用意して投票所まで送迎したという。

（yahooニュースより抜粋）

配信元【吉村周平】7月13日21時27分配信毎日新聞

未だにこんなことが起こっているなんて！今回の参議院議員選挙にたねやのあるメンバーもご両親と投票に行ったそうです。聞いた話ですが、選管の方がサポートして、指で指した候補者名を、投票用紙に書いてもらったみたいです。こういう人達は知的障害者が、判断能力がないと思っている人が多い！

私たち知的障害者だってはっきり意思表示はできるし、はっきり言葉で話せない人でも好き嫌いをうなずいたり、首を横に振ったり手足を動かしたりして、それぞれ意思表示をすることはできるはずですよ。私はこの会社のHPの写真を見ての感じですが、たぶん会社の敷地内

に、知的障害者用住宅が併設しているように見えます。こうやって障害者を24時間365日社長が近くにいる状況では、自分の意見を言える雰囲気ではないと思います。この社長が障害者のことを考えているなら、住宅はもっと生活しやすい場所にあるはずだし知的障害者以外の一般従業員と同じような環境でもかまわないはず！「この会社のHPには一般従業員のことはほとんど出てきません。」もしHPを普通の人が見たら、障害者に理解がある県にも表彰された奇妙な会社だ！と思う。

でも私たち障害者当事者からしたら、会社の敷地の隅に住まわせて、いつでもサービス残業させられるし、管理されるし、障害者がいっぱい働いていますとってHPで紹介されている。この悔しさ！

私が特別かもしれないが、特に軽度の知的障害者にはできるだけみんなと同じように過ごして、障害のあることを隠そうとする人が多いと思う。自分の障害が恥ずかしいとかではなく、これは私の過去の経験からいうと、いじめやからかわれたことがあるから、もっと個人のプライバシーが守られて、わかりやすい投票方法があるはず！

今、公選法を変えてe-mailでの投票方法を検討しているみたいだけど、この方法は、携帯電話やPCを持っている人に限られる。高齢者にはわかりにくいといわれているらしいので、私は液晶画面のタッチパネルを投票所に設置する方法もあると思う。これなら今までの方法とあまり変わらないでいけると思う。来年はもっと、障害者や高齢者のプライバシーが守れる公平な選挙が行われることを願います。これからはこうした障害者や高齢者を利用しようとする事件が減ることを願います。

最後にまとまりのない文章で乱筆乱文ですいません。最後まで読んでくれた方に感謝してこの記事を締めたいと思います。



札幌・障害者活動支援センターライフ
 共働サービス たねや
 〒063-0812 札幌市西区琴似2条5丁目
 3-5 マンションモモ
 たねや ☎ 011-614-1871



夏真っ盛り! そうめん営業 大繁盛



北海道に短い夏がやってきました。今年もライフでは島原の手延素麺の販売をはじめました。たねやではそうめんの営業に出ています。今月はメンバーのそうめん営業の報告をします。みなさん、残り少ない夏をライフの島原手延べそうめんできりきりしましょう。

初めてのそうめん営業

増田 真理子

私は、初めてそうめんの営業に行きました。行った日は7月1日(木)です。その日は木曜日お休みの日でしたけどそうめんの営業に行く事になりました。仕事を終わったら3時休憩をして、3時15分になったら車に乗って豊明高等養護学校に行きました。

私は久しぶりの豊明高等養護学校に来ました。まずは職員室でそうめんの営業をして先生たちがそうめんとひやむぎを買っていました。知っている先生も知らない先生もいました。そうめんは3個ひやむぎは5個買ってくれてうれしかったです。帰った時豊明の生徒に会ってあいさつをしました。そして先生たちとお別れして車に乗ってたねやに帰りました。久しぶりに豊明高等養護学校に行くとうれしかったです。天気が悪かったけどちょっと緊張したけど、楽しかったです。また豊明のそうめんの営業またいきたいです。

山本さんの夏の過ごし方

「たねや」で夏を振り切って!

山本 守一

夏といえば「たねや」では、島原の手延べそうめんを食べて、さわやかなひと時を過ごしてもらおうとチラシを折っています。暑い外に出てポスティングをして「このそうめんがおいしいアピール」して、そうめんの中に氷を入れて冷たくしてこの暑さをぜひ、のりきってください。

よく売れたソーメン営業

小野寺 貴彦

豊明に着いてからすぐに販売して、ソーメンとひやむぎ売れてびっくりしました。

そうめんの営業について

大島 隆也

7月1日にそうめんの営業をするため豊明に行きました。初めての営業で、緊張しました。僕がお世話になった先生が4人ぐらいいました。僕は、説明が苦手な少し不安でしたが頑張りました。次回の営業も楽しみですたくさん売れて良かったです。

緊張した! そうめん営業

宮澤 智成

豊明にそうめんのチラシをもっていったこと初めはきんちょうがしてなかなか大きな声がだせませんでした。でも、少しずつ少しずつそうめんの仕事を着々と頑張りました。そうめんの営業の仕事が楽しくなり緊張もなくなりました。

新人紹介

高橋 佑直 ゆうじ

始めまして。私は高橋佑直ですよろしくお願ひ致します。

趣味は読書とスポーツ観戦(特に野球、とサッカー、バスケットボール、プロレス)です。ライオンズとファイターズとコンサドールとシラカムイのファンです。

ヘルパー派遣業務・在宅介護支援 ヘルパーステーション

ゆい
繭結



ヘルパーと行こう「この風景が凄い！」

アンクルかさい

樺戸郡月形町 篠津山墓地。ここに北海道の負の遺産が眠っている。

明治14年、北海道で最初の集治檻が月形町に作られた。ここで全国から集められた囚人達は夏冬を問わず過酷な使役、特に道路開墾を強られるわけだが、耐え切れずに斃れた者の行く先が月形町篠津山墓地である。

北海道の道路の幹線はこの時期、明治の中期にほぼ形作られた。当時、全国から大々的に徴集された屯田兵という北方警備隊兼開拓団達が、割り当てられた開拓地に向かうための道路は最低限必要であったし、ロシア南下政策への防備も急務であり、また日本の近代化の絶対条件となる資源開発と資源搬出のためにも、北海道の道路確保は至上命令であった。

月形町の樺戸集治檻（現・行刑資料館）の入り口を見るといい。石の階段の真ん中部分がうねりのように磨り減っている。出入りした囚人たちの足の鎖の跡だ。明治14年から廃檻の大正8年までの39年間に刻まれた、まさに囚人たちの足跡である。その資料館から国道沿いを西に2^{キロ}で町立の篠津山墓地がある。墓地は田園風景の一角に拡がり、入り口右手に二百有余の墓標が整然と並んでいる。

最初にここを訪れたのは30年も前のこと。私はそのころ秩父困民党に興味があり、秩父事件(明治17年)で蜂起敗北し、裁判欠席のまま死刑宣告された困民党会計長の井上伝蔵を追っかけていた。北海道に逃れた痕跡を秩父、今金、石狩とたどり、途中で樺戸集治檻―篠津山墓地に行き着いた。(彼自身はその後、野付で生活。妻子に見守られながら65歳の波乱の生涯を閉じる)。当時の墓標は木製であり、風雪にさらされ名前も判読不能であったが、数年前に石柱となり、享年や出身地が新たに読み取れるようになった。記してある享年を確認するとほとんどが20代半ば。その断片からの光景が、もうひとつの北海道史を雄弁に物語っている。

たとえば札幌・旭川間の国道12号線は、樺戸集治檻と空知集治檻の囚人達で作られた。道の予定地の両方から狼煙を上げ、それに向かって道を作るといふ、未墾地ならでの方法で進められた。それも朝の3時から夜の9時までの労働で、山中では食事も用

意できず、まる一週間は水のみとの記録も残っている。旭川・網走間は空知と網走の囚徒が1年半で作り上げた。徴用された囚人は1500人余で200有余が死亡。倒れた囚人を鎖のまま埋め捨てた土饅頭を鎖塚と呼び、北見地方にいまでも幾つか確認されている。

当時の道内3ヶ所の集治檻には、自由民権運動の賛同者や不平士族も多く収監されていたが、あまりの苦役や死亡率の高さに世間からの非難が高まり、やがて囚人達の仕事は内務労働に転換されてゆく。ここで不足となった労働力は少数民族や外地からの拉致、田舎からの売買で集められ、もうひとつの悲劇、たこ部屋が存在となる。道内では常紋トンネル、根北線、雨竜ダム等が有名で、戦後まで続けられてゆく。

私には苦い体験がある。それは常紋トンネルでの慰霊祭に参加した時の事であった。会場はあいにくの雨。その中で傘もささずに尼僧の読経。ずぶぬれの尼さんに「死んだ人、一人一人にお祈りをしましょう」と促がされて、私は啞然とした。私は自由民権運動の志士を探していた。普通の犯罪者には関心はなく、獄舎址でもお墓でも敬意の念は、ああ気の毒に、程度であった。しかしその時、私は死者を差別していることを知らされたのだ。「死んだ人、一人一人にお祈りをしましょう」という尼さんの言葉は雨よりも心に染み、私の軽率な思い上がりを打ちのめした。その時から私のフィールドワークは封印されたままである。

樺戸集治檻を題材の吉村 昭の赤い囚人服が表題の「赤い人」や小池喜孝の労作など参考になる文献も多いが、私のお薦めは、

山が泣く 風が泣く 少し遅れて雪が泣く
女いつ泣く 灯影ゆれて 白いからだごとける頃

と続く、阿久 悠作詞
「北の螢」である。

そんな歌を口ずさみながら、ヘルパーと月形町に行こう。

繭結のヘルパーは歌も歴史も得意です。





共働事業所 もじや

〒063-0812
札幌市西区琴似2条5丁目3-5マンションMOMO 1F
TEL (011)644-5533 FAX (011)613-9323
E-mail: mojiya@adagio.ocn.ne.jp

-  印刷・編集・制作・出版・企画
-  テープ起こし
-  名刺、小冊子の版下作成
-  ホームページの作成管理



新人紹介!! もじやに来て

渡邊 重治

7月1日からもじやで働き始めました渡邊です。僕はもじやで働く前は、きばりやで働いていました。もじやでの(パソコンの仕事)働くことを、ずうっと憧れていました。パソコン、漢字、その他いろいろ覚えることがたくさんありますが、頑張ろうと思っています。

鈴木 麻依

私は2010年7月に、たねやから新しくもじやの制作のほうに異動して来ました。1週間とまだまだ日も浅く未熟な点もたくさんありますが、私はパソコンを使った仕事が好きなので、その気持ちを忘れず大切にしていこうと思います。

これからも制作のほうで少しずつパソコンの色々な機能や使い方を覚えていきながら仕事のほうもドンドン頑張っって早くこの仕事に慣れていける様に頑張っっていきたく思います。これからもどうぞ宜しくお願い致します。

関 隆広

たねやでは、学校のそうじをがんばっていました。たねやとは違いもじやの仕事は覚えることがたくさんあります。はやく覚えて、作業はじょじょになれてゆくことです。今はあせらずに上をめざして、じょじょに覚えてゆきます。

私たちの時代

加藤 信一

世界的不況の中で私たちはどうなるんだろうか？ソ連が崩壊して共産主義もダメになった。では、自由主義はどうかと言えば、栄華を誇っていたアメリカを見るとこれまたうまくはいっていないと思う。

1990年ころのバブル経済は異常でした。自分

の儲けばかり考えて、他人はどうでもよい、などという風潮があったのではないのでしょうか？

そんな時代、健常者と障がい者が共に活動し、生活していく。少しづつでも成長していくのではないのでしょうか？私が以前、勤めていた会社ですが、基本理念は「ひとりみんなのため、みんなはひとりのため」です。組合員さんと共に成長してきました。

鼻くそをほじる。

門田 輝美

うちの娘は知的障がいB、人前でも平気で鼻くそをほじる。それは恥ずかしいことだからと何度教えても人前で平気で鼻くそをほじる。子どもの頃は食べていた。二十歳になった今、さすがに食べなくなっただけまだまし。

先日のワールドカップアフリカ大会でドイツの監督が、鼻くそをほじって食べたところをTVやネットで世界中に配信されてしまった。世界3位の大監督が鼻くそを食べたのにはさすがにびっくりしたが、障がいがある無しに関わらず人前で平気で鼻くそをほじる人は結構いるのだろうか。

そう言えば以前働いていた会社の社長の奥さんが、私の目の前で平気で股間をポリポリ掻き始めたのを見た時は度肝を抜かれた。見間違いかとパートのおばさんに確認したら『あの人昔からそうなんだよね～。でも社長の奥さんだから、誰も注意できないでしょう。お客さんの前でも平気でポリポリ掻くから、お客さん、目のやり場に困るんだよね～』と鼻くそをほじくりながら説明してくれたのにもびっくりした。

何度教えても直らない娘に、知的障がいだからと諦め半分で教えていたが、根気よく教えていこうと反省した。



札幌市障がい者協働事業
共働事業所

きばりや **キ** バラネット☆☆

個性豊かなスタッフが共に働いています。

機械折り

石川 和寛

今回は機械折りを取上げることにします。機械折りというのは文字通り機械で印刷物を折ることを言います。基本的には機械を1人で操作をして、もう1人が手伝ったりします。でも忙しいときは全部1人で操作をするときもあります。操作をしているうちに少しずつズレたりもしますが、なるべく誰にも頼らないようにしたいです。

今回の機械折りは僕が担当しました。忙しかったので1人で行ないました。もっとスムーズにやれたら仕事の流れが上手くいくはず。

7月の仕事について

織本 亜哉子

7月1日から5日まで2008年10月以来のテープ起こしをやりました。

久しぶりにテープ起こしをしたので、最初はやり方を忘れていたけれども、少しずつ前みたいにできるようになりたいです。

いつも通りに帯にタックシールを貼って、通信の折りと帯止め、旅行チラシと本の6点封入、ホッチキスの製本の仕事がありました。

ふりっばーのポスティングの仕事を7人で29日にやります。

やってみたい仕事

星 悠

営業の勉強をしてみたいです。理由は、きばりやの仕事をいっぱいやりたいです。もっと仕事をとればやりがいがあるからです。みんながよろこんで仕事ができると思います。

もじやからきばりやに異動

今野 美志

今月1日からきばりやに来て、みんなとなかよくしごとしている。

じゃっかんストレスもなくなり、気がはれたと思う。

☆ 夢を語ろう!! ☆

濱中 孝仁

僕はアイドルになっておんがくをCDにつくりたいです。少年隊の仮面ぶとう会を岡田さんと僕でしたいです。

家にひっこしして、りょうりとそうじとせんたくをしたいです。

レクリエーションのパソコンにプログラムをつくりたいです。

おめんをつけて、げきを星君と僕でしたいです。

ひこうきにのりたいたいです。

ポスターをかみにつくりたいです。

◇こんな仕事をしています◇

このコーナーはきばりやで今までどんな内容の仕事をしてきたのか紹介するコーナーです。今回は『シール貼り』の仕事を紹介します。シール貼りと言っても、様々なものがあります。スーパーのお惣菜パックのシールや包装の商品シール、又印刷物の訂正シールなどです。

小さなシールの場合は指定された場所に貼ることが以外に難しく苦勞することもあります。商品の見た目を大きく左右するシールが多く、1つ1つズレないよう気をつけて貼ります。逆に、大きなシールの場合でもシールを貼る場所に目印がない時があり、私たちの仲間にはどの場所に貼ればいいのか困惑してしまうことも多々あります。

そんなシール貼りの仕事……ただシールを貼るだけと思われがちの仕事でも、やってみると色々気をつけなければならないことが多い仕事の1つです。

その他にも…DM発送や封入・製本等を行なっております。きばりやにできそうなお仕事がありましたら、是非お電話いただければと思います。

お問い合わせ先は
こちらまで



西区西町北7丁目1-5
齊藤ビル1階



TEL: 011-669-3810
FAX: 011-669-3808

生活保護受給者を対象とし、食事や行政手続き代行などのサービスを提供し利益を得る、いわゆる「貧困ビジネス」がマスコミでも報道され、民主党は「被保護者等住居・生活サービス提供事業の業務の適正化等に関する法律案」を作った。この法案は、住居に食事などを「抱き合わせ」で提供する事業所への法規制で、悪徳業者もビビるだろうが、ホームレス支援団体にも微妙な影響を与えることになった。

野宿からの救出とは、住居を確保し、食事を提供し、医療や介護、就労などへと道案内していく支援で、無償で始めても、支援を持続させるには、生活保護費からサービス対価を得るしか方法がない。社会福祉法にもとづく救護施設も同じことをやるが、財源は公的に保障されている。しかし、とても間に合う数ではないから、ホームレス支援団体が動き、頃合いを見て悪徳業者が便乗する。まあ、ありそうなことだ。そして、政治は、社会福祉は身内だからヨイショして、悪徳業者を遅ればせながら血祭りにあげる。ホームレス支援団体は、萎縮して、社会福祉への「転業」を真剣に考え始め、残ったのは、正義の味方・社会福祉と巧妙になった悪徳業者で、支援は絡め取られ、ホームレスは肩をすぼめて、ジ・エンド。



「貧困ビジネス」の法規制という出来レース

なあんだ、出来レースだったのか？そして、ボクの、毎度お馴染みのぼやきが始まる。「法制度がないと公は動かないし、儲からないと民は動かない。しかし、法制度がなくても、儲からなくても、社会問題は解決しなければならない」。

「貧困ビジネス」、誰が言い出したのか知らないが、そもそも、ボクは、ずっと前から「ブラックマーケット」或いは「福祉の空洞化」と言ってきた。西成では、住宅扶助の4万2千円に賃貸住宅家賃が上下移動するし、最近では、個人の建て売りが4部屋ほどの賃貸に変わる「戸建改修型福祉マンション」のようなものまで登場した。もう、これは戦場（市場）で、貧困ビジネスに社会福祉で抗するというのは、昔懐かしい非武装中立と同じ。武器を持って闘う、「社会的ビジネス」を「興す（起こす）」ということしかない。政治は、そこにこそ力を貸さないと、法律や制度は、守られるだけで、活かされない。

ホームレス支援団体も、放っておけないという「社会運動」から始まり、ホームレス自立支援法で「社会事業」も手がけ、いま、「社会的起（企）業」へとステージをあげる時なのかもしれない。

(株)ナイス代表取締役 富田一幸



※本原稿は、株式会社ナイスの了解を得て同社が発行している「なび」7月号より転載させて頂きました。

社会的事業所集団

傍楽亭

はたらくてい

亭主 石澤 利巳 (NPOライフ 専務理事)

このページは、社会的雇用、社会的就労等を考えるコーナーです。といいながら、かなり私的な色彩を帯びることをお断りしておきます。また、「亭主」などと呼ばれたこともない私めが、俗世間の旦那衆一般の呼び名を生意気にも冠にさせていただいたのは、ライフ発祥の地・西区二十四軒に構える拠点の名称を「傍楽亭」【働くという言葉の語源には、傍(はた)が楽になる、という言葉の意味がある。反対語／傍迷惑】としたことに由来します。文字通り、地域の人々に必要とされることを目的に活動する集団です。

＜困難を抱える人に、福祉施策だけではなく雇用施策を＞

参議院選挙が真最中。争点が消費税になっていく事は大賛成。亭主は、かつてアドボケイトで「消費税を15%にして、福祉目的税に」と主張したこともあり、増税論者です。その議論はまたの機会に譲り、7月3日開催された北海道地域生活定着支援センター開設記念ー地域生活定着支援事業研修会で聞いてきた講演の感想を書きます。

この事業は、「刑務所などの矯正施設を出所した高齢者、障がい者の社会的復帰を支援する」ことを目的としたものです。講師の一人、山本譲司さんは元衆議院議員で、秘書給与詐取事件で懲役1年6カ月の判決を受け獄中生活を体験。その体験をもとに「障害のある受刑者の出所後のシェルター」作りなど、支援活動に携わっている。著書に「獄窓記」「累犯障害者」等がある。山本さんは、自らの体験やその後の支援活動などで感じていることを語った。「身元引受人がいない受刑者が多い。そのため仮釈放ではなく満期出所が多い」こと。「窃盗など幾つかの軽犯罪を繰り返し、逮捕→入所→満期出所→再び窃盗→逮捕→入所」を繰り返す人が多いこと。そういう人の多くが、知的障害や発達障害、精神障害であり、福祉のサービスを受けていない人であることに、大きなショックを感じたと語っていた。

2008年に新たに刑務所に入所した人28,963人のうち、知的障害と判定された人は237人、人格障害161人、神経症387人、その他の精神

障害1,214人。検査による判定でIQが49以下とされた人1,232人(4%)、50～59が1,742人(6%)、60～69が3,729人(13%)、70～79が6,726人(23%)、80～89が7,039人(24%)となっている。ボーダーの人も含めると、刑務所に入所している50%を超える人が何らかのハンディを持っていることになる。知的障害で初めての入所は29%の人で、7割以上は複数入所経験者である。10回以上の入所経験者は10.7%もいる。(統計は、法務省「矯正統計年報」2009年版)

また、刑務所に入る一人の入所者にかかる年間予算は1500万円だという。ILO(国際労働機関)は日本の懲役刑が「強制労働にあたるのではないかと批判している。まして、その懲役で得る報酬は、2008年度で月約4,200円だという。

福祉の貧困が、累犯障害者をつくり、「自立」の名による「孤立化」がすすんでいると、山本さんは訴える。そして、障害者を福祉施設に抱え込むのではなく、地域で暮らす場を、地域で働く場を作ることが最も重要なことだと語っていた。

社会から排除され、矯正施設(刑務所等)で管理支配され、シャバに出てくると福祉に縛られていくんじゃない、何が「健康的で文化的な生活」なんだろうか？

福祉を生業にするものとして、様々な困難を抱える人たちと共に働く「社会的事業所」の創出が一刻も早く求められていることを、強く感じた1日でした。(7月8日記)

Cafe de kibariya



—— 夏、真っ盛り ——

暑〜い日が続いています。これから夏休みの方もいることでしょう。北海道の短い夏を楽しんでいますか？ でも、夏の空も変わりやすく、急に寒くなったりして体調を壊しやすい季節でもあります。皆さん、健康管理には気をつけていると思います。

カフェで働く私たちは夏バテ知らず。食材には有機のものにこだわって、安心・安全を心がけていますが、とっておきの秘訣があります。それはよく笑うことです。（^v^）

私たちは、よく食べる、よく動く、よく笑います。

忙しくて大変な時もありますが、みんな助け合って共に仕事をしています。

これからも笑顔のたえないカフェとしてきばります!!

—— 最近のカフェは ——

鈴木 昭子

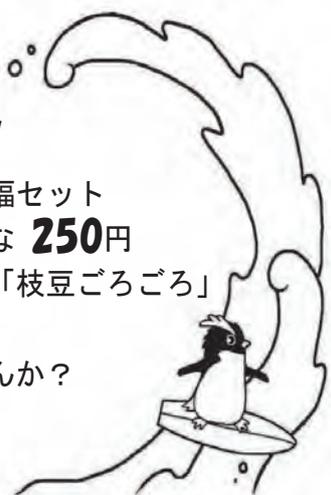
6月下旬から7月に入り、夏らしい日が続いたので、冷たいアイスコーヒーやゆずジュースなどのお飲み物がよく出ます。そして、利用するお客様もホールを利用する方だけではなくて、お部屋を利用する方々からの配達も増えて、定着してきたのでうれしいです。

私はというと、やはり毎日エルプラザの中で行なわれたり、利用するお部屋の関係などでお客様の流れも日々ちょっとずつ違います。

でも、近頃感じているのは、忙しい時のほうが動いている気もして、働いている！という感じがします。とにかく、今は日々が充実していて楽しいです。

夏のおやつに!!

カフェで大人気の大福セット
お茶とセットでお得な **250円**
夏は、ずんだあんの「枝豆ごろごろ」
がおすすりめです。
ほっとひと息しませんか？



夏の **新** メニュー

- なつかしの味
いちごミルク ￥ **300**
- カテキンパワー
緑茶オーレ ￥ **300**
- ワタミファームの
有機アイスクリーム ￥ **250**

Cafe de kibariya

TEL/FAX:011-758-6533

札幌市北区北8条西3丁目
札幌エルプラザ3階ホール前

営業時間 11:00~18:30
定休日 年末年始

※エルプラザ内配達承ります。





コン・ブリオひだまり TEL(011)615-4131
 西区琴似2条3丁目2-37 サンハイム1F
ひだまり配送センター TEL(011)613-0611
 西区二十四軒4条6丁目5-32 テラ二十四軒1F
 コン・ブリオひだまりに配送センターができました。

新製品

『ごらく菓子舗のあられ・おかき』

小袋シリーズ 各 210円

- 醤油おかき
- えび素焼きおかき
- 塩サラダおかき
- ザラメあられ
- 玄米あられ
- ごま素焼きおかき
- 青のり素焼きおかき
- えびサラダおかき
- ごま醤油あられ

お徳用シリーズ

- ザラメあられ・ごま醤油あられ ... 各 320円
- ピリ辛あられピスタチオ玄米 ... 各 350円
- ピリ辛あられピスタチオ



ちょっとした疑問? あられとおかきってどこが違うか分りますか? 3つからお選びください。
 1. 原材料が違う 2. 大きさが違う 3. 焼き方が違う
 答え...2番の大きさが違います。大きいのがおかきで、小さいのがあられだそうです。(正解してもなんもないけどね!)

フクイの豆腐、復活

長らくお待たせしていました「フクイの豆腐」再登場しました。豆腐のほかにも扱っています。

- 豆腐→もめん、きぬ、よせ、各一丁 150円
- 大あげ、小あげ→各 150円
- 三角生あげ→ 180円
- ところてん→ 150円
- こんにゃく→ 150円
- 納豆→ 120円



この暑い季節、柚子胡椒に醤油で冷奴などいかがですか? ちなみに(馬路村の)柚子胡椒も、ひだまりで!(しっかり宣伝!)

大あげを素焼きして、適当に切って、生姜醤油でいただくとお酒のつまみに最適...たまりませんなあ!

メンバー募集のお知らせ

ひだまりでは一緒に働いてくれるメンバーの方を募集しております。
 料理に興味がある方、得意な方、接客業務の好きな方、人と接するのが好きな方、ぜひ、一度見学してみませんか。そして一緒に働きましょう。
 明るく楽しい職場です!

無添加のアイスクリーム

バニラ、チョコレート、ゴマ、抹茶、ブルーベリー、パンプキン 各 220円

ひだまり独自調べによる人気投票発表! (ジャジャン♪)

- 第一位、バニラ
- 第二位、チョコレート
- 第三位、抹茶



みんな美味しいのですが、ひだまりではこの三つが人気です。
 皆さんもぜひ食べくらべてみてはいかがでしょうか?

ひだまりキッチンニュース

夏メニュー

ひやむぎ始めました! 価格は 400円。

薬味: ネギ・生姜

島原の麦作を使っています。

めんつゆはもちろん手作りです。

食べに来てください。



新鮮な野菜やそうめんはいかがですか？ ライフではこのような商品も扱っております！



農事組合法人オーガニック新篠津の生産者がつくった 安心・安全な野菜をお届けします！



有機野菜・有機農産物の共同購入に参加しませんか？
生産者の顔が見える安心な野菜をご賞味ください。

食品の安全が大きな問題になっている今、「地元で作られたものを地元で消費する」地産・地消が求められています。この考え方は「地域で暮らし、地域で働く」共生・共働の考え方に通じるものを感じます。

私たちNPO法人札幌・障害者活動支援センターライフは、「農事組合法人オーガニック新篠津」の生産者との交流を始めています。

「農事組合法人オーガニック新篠津」の皆さんは、農薬や化学肥料・化学飼料をつかわず、消費者に安心・安全な、そして美味しい野菜や米、鶏卵などを届けるために活動している生産者グループです。

私たちは、「農事組合法人オーガニック新篠津」の協力を得て、「有機農産物の共同購入」をすすめています。この共同購入は、「安全・安心できる野菜の共同購入」だけではなく、配達や仕分け作業を「仕事」として位置づけています。同時に、私たちが参加している「共に生き・共に働く事業所ネットワーク」（略称・ともどもネット）の協同事業としても考えています。

「農事組合法人オーガニック新篠津有機農産物共同購入」にぜひご参加をお願いします。



共同購入の内容

野菜や鶏卵など、その日に収穫された野菜たちが「おまかせセット」として各家庭に配達されます。何が届くか、ワクワク・ドキドキです。

おまかせセット (1パック) 3,150円 (税込)

平均12品～16品目(鶏卵6個含む)入り。

お試しセット (1パック) 1,050円 (税込)

平均4品目(鶏卵なし)入り。

鶏卵 (1パック6個入り) 360円 (税込)

数に限りがあります。

お届けする期間は、6月～12月までの7ヵ月です。



申し込み方法

下記までにFAXか郵送にてお申し込みください。
申込み切/毎月第3金曜日。12月分は11月の最終金曜日。

注意



12月は、お米と漬け物セットになります。
※その他、お米の取り組みも始まります。

配達地域は札幌市内に限定しますが、地域によっては配達できない場合がありますので、事前にご確認ください。



支払い方法

年間予約割引(6月～12月分前納)の方は…
消費税分をサービス。3,000円×7=21,000円を郵便振替にて前納して下さい。

通信欄に必ず「新篠津共同購入分」とご記入下さい。
第1回目の配達時にお渡しいただいても構いません。
通常購入の方は…

毎月の配達時に代金引換でお支払い下さい。

●申込先・お問い合わせ…

NPO法人札幌・障害者活動支援センターライフ事務局・石澤まで
札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションモモ1階
TEL：614-1873 FAX：613-9323

郵便振替：口座名/特定非営利活動法人
札幌障害者活動支援センターライフ
口座番号/02710-4-63485



G-35 ひやむぎ・麦作/化粧箱・1500g詰(150g×10束)
ダンボール・1ケース=7個入
包装外寸=297×240×39mm
標準小売価格 1個 ~~3,675~~円
(本体価格 ~~↓~~00円)
2,550円



K-50 細糸の舞/木箱・2000g詰(50g×40束)
ダンボール・1ケース=6個入
包装外寸=335×210×47mm
標準小売価格 1個 ~~5,250~~円 **→3,500円**
(本体価格 5,000円)



B-40 夏ごころ/化粧箱・1800g詰(50g×36束)
ダンボール・1ケース=7個入
包装外寸=318×220×42mm
標準小売価格 1個 ~~4,200~~円
(本体価格 ~~↓~~00円)
2,800円

長崎島原名産

蔵田本格手延べ

島原手延そうめん

ひやむぎ



製造元
島原手延素麺協同組合

発売元
NPO法人 札幌・障害者活動支援センターライフ
札幌市西区琴似2条5丁目3-5
マンションMOMO1F ライフ事務局
TEL (011)614-1873
FAX (011)613-9323

「細さ」
「舌ざわり」
「こし」
伝統の味わいを心ゆくまで
お楽しみ下さい。

《おいしいゆで方》

《そうめん》

多めの沸騰したお湯にめんをバラバラと入れ、軽くかきまぜます。
ゆで時間は2分程が標準です。
お好みのゆで加減を確かめてザルに上げてよく水洗いして下さい。尚、ゆで上がり後はなるべく早目にお召し上がり下さい。

《ひやむぎ》

多めの沸騰したお湯にめんをバラバラと入れ、軽くかきまぜます。
ゆで時間は4分程が標準です。火を止め、3分程むらします。
お好みのゆで加減を確かめてザルに上げてよく水洗いして下さい。尚、ゆで上がり後はなるべく早目にお召し上がり下さい。

共同連
宮城大会
開催記念

牛タンカレー

好評
発売中!!

仙台名物 牛タンカレー「桜蔵(さくら)」

ワインでじっくり煮込んで仕上げた本格
カレー(限定200食)
デミグラスソースみたいなルーで、牛タン
マッシュルーム、きのこ、トマトピューレ
が入っております。



1人前 180g **650円**

私のオススメ

「赤坂はな」さん21歳、
ただ今、就職活動中
きばりや 岡田 悟

赤坂はなさんの日々の生活と就職活動の
様子を追ったDVD『はながゆく』。
車椅子で言語コミュニケーションが難しい
彼女だが、時にシェアハウスの管理人とし
て働き、時に大学の講師として生徒の前に
立つ。

他にどんな活動をしているかは見てのお
楽しみですが、障がいのある方の仕事に対
する情熱を何とかしたいと考える私たちか
らして見れば、その就職活動一つ一つが驚
きであり、新たな方向性を見つける鍵とな
るものでした。

また、私的には本編だけではなく、ヘル
パーさんからのメッセージも是非見てほし
い部分の一つです。やはり本編の45分の中
では表現しづらかった部分や、はなさん自
身の動きがヘルパーさんを通してより現実
的なものとして感じる事ができると思ひ
ます。



・本編：はながゆく(45分) ・DVD購入 個人価格 ¥5,000
・特典映像つき 法人価格 ¥20,000

ご協力ありがとうございます

賛同会費	寄付金
北海道ワーカーズ・コレクティブ連絡協議会 様 大谷 強様 河合 健彦様	鐘ヶ江 寿美子様 石澤 利夫様 菅原 昌子様 山本 昭彦様
アドボケ購読料	維持会費
藤本 和男様 高橋 秀樹様 酒井 緑様	阿達 まさ子様

お知らせ 誠に勝手ながらライフは8/16(月)にお盆休みを頂きますので、ご連絡は8/17日(火)以降にお願いいたします。(締結は除く)

編集後記
参議院選挙が終わり、少し静かになりました。選挙では消費税についての話題が争点のようなものになりました。しかし、具体的な議論はこれからです。日本の現状はどうなっているのか。そして、どのような国を作ろうとしているのか、そのために議員は何を考えているのか。国民は何をしなければいけないのかをきちんと議論しなければいけないと思います。消費税を上げるのは誰も望みません。しかし、医療や福祉の充実は望み、国が抱える借金は望まないなんて勝手すぎますよね。ならば、どうするのか…皆さんは投票しましたか? (たけ)

アドボケイト 文月号(第116号)

2010年7月10日発行 (毎月10日発行) 通巻第460号
HSK通信1973年1月13日第3種郵便物認可
発行人/北海道身体障害者団体定期刊行物協会
細川 久美子
〒063-0868 札幌市西区八軒8条東5丁目4-18
編集人/NPO法人札幌・障害者活動支援センターライフ
事務局長 我妻 武
〒063-0812 札幌市西区琴似2条5丁目3-5マンションモモ1F
TEL 011-614-1873 FAX 011-613-9323
E-mail npolife@beach.ocn.ne.jp
ホームページ http://npolife.net/
郵便振替口座 02710-4-63485